令和４年度スポーツ庁委託事業

障害者スポーツ推進プロジェクト

～特別支援学校における運動・スポーツ活動促進事業～

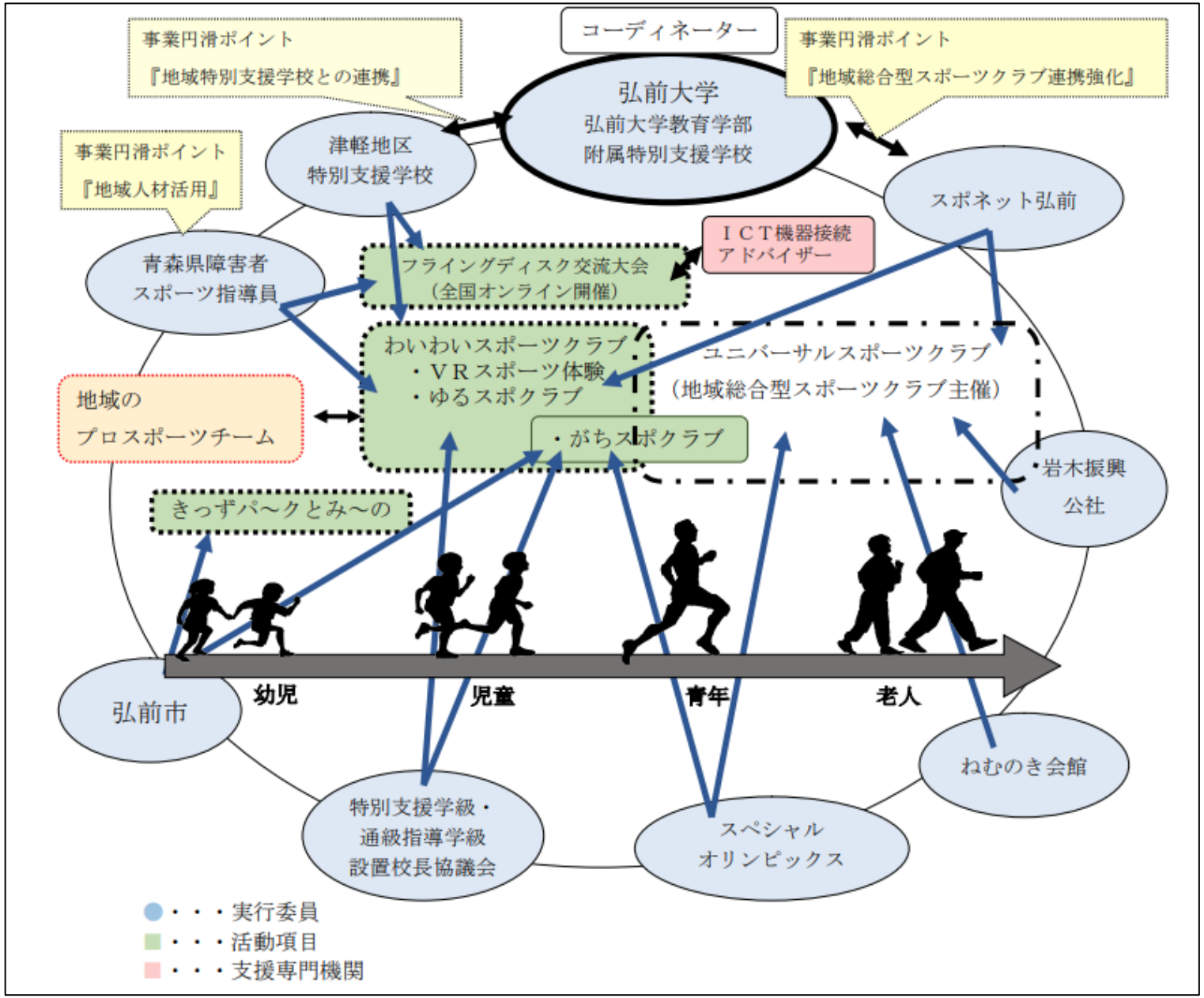
事　業　報　告

弘前大学教育学部附属特別支援学校
教　諭　　中　嶋　実　樹
miki-04@hirosaki-u.ac.jp

２０２１年度の課題　～地域で定期的・継続的な活動の実施～

課題	今年度の目標	今年度の活動
学童期から青年期へのつなぎの連携 わいわいSCとユニバーサルSCの連携 定期的な活動ができるシステムの構築	スポーツ実施率の向上 （実施率40%） **生涯を通したスポーツ活動の場の構築** 遠方からでも参加できるスポーツ機会の提供 ↓ **地域人材との連携、活用** ・地域総合型スポーツクラブ ・地域プロスポーツチーム ・障害者スポーツ指導員	「きっずパークとみ～の」 「わいわいスポーツクラブ」 ～ゆるスポ～ **～がちスポ～** **地域部活動の導入** 「フライングディスク交流大会 ～弘大杯～」
地域人材、地域施設の活用 地域の中でのスポーツ活動の展開		
各組織の役割分担の明確化 実行委員会の機能を活かす 組織図作成し、円滑な連携体制構築		

令和４年度弘前大学モデル



【実行委員会の開催】

① 令和4年6月28日
② 令和5年1月19日

【内容】

① 委託事業概要説明
・検討事項
今年度の活動内容
参加対象
役割分担

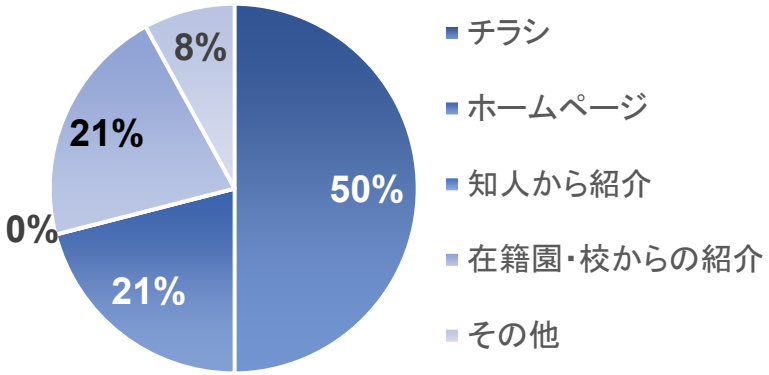
② 委託事業報告（実施報告、成果と課題）
・検討事項
次年度の方向性

『きっずパークとみ～の』

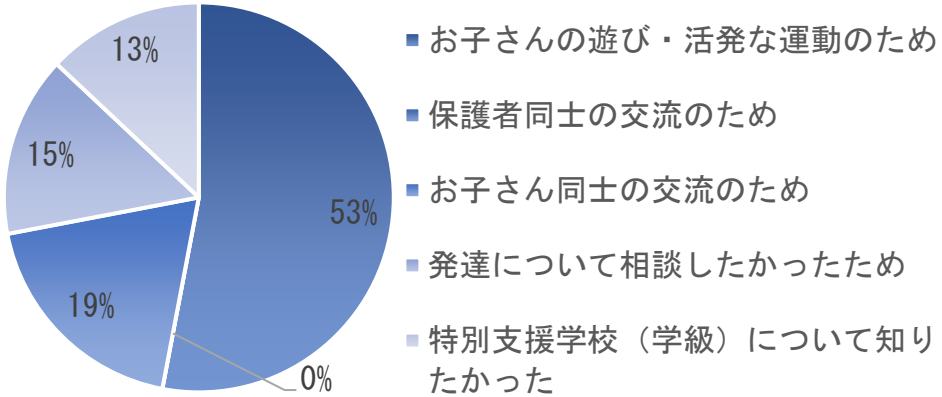
日にちと場所	参加人数	相談対応件数
１０月２２日　(市民体育館)	４名	０件
１１月２３日　(市民体育館)	２１名	５件
１２月２６日　(特別支援体育館)	６名	１件
１月１４日　(特別支援体育館)	１６名	２件
２月１８日　(ヒロロ)	１５名	１件
	計 ６２名	

【参加者アンケート(新規参加者14名対象)】

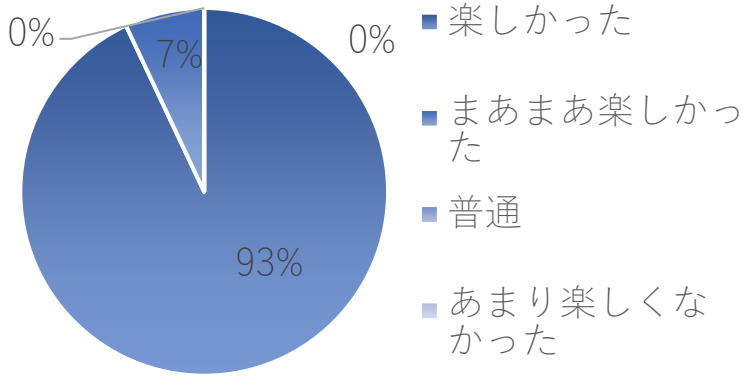
《来場のきっかけ》



《参加理由》



《参加してみての感想》



【自由記述】

・なかなかない機会に感謝している。予想以上の遊具に子供も楽しそう。相談ができてありがたい。

『わいわいスポーツクラブ～ゆるスポ～』

	日にちと場所	指導者	種目	参加人数
1	１０月２２日　(市民体育館)	ブランデュー弘前	サッカー	６人
2	１１月２３日　(市民体育館)	サクラオーバルズ	ラグビー	８人
3	２月１８日　(特別支援体育館)	障害者スポーツ指導員	ボッチャ	募集中

1回目、２回目とも、半数が通常の小学校からの参加

→ インクルーシブスポーツの実施

【参加者、保護者の声～インタビューより～】

・とてもいい雰囲気でスポーツを行っていて、子供も楽しそうでした。

・コロナ禍だけどできて嬉しい。ずっと待っていました。

・自分の子がラグビーできると思わなかった。嬉しい。

・もっと多くの人に参加してほしい。

・来年もやってほしいです。

『わいわいスポーツクラブ～がちスポ～』

【実施報告】　会場：弘前市身体障害者福祉体育館　入会数：11人

日にち	種目	指導者	参加人数
１０／　８（土）	バスケットボール	スポネット弘前 障害者スポーツ指導員	５人
１０／２９（土）	フットソフトボール		８人
１１／１２（土）	バスケットボール		７人
１１／２０（日）	バスケットボール		７人
１２／２４（土）	バスケットボール		１１人
１／１４（土）	フットソフトボール		７人
１／２１（土）	バスケットボール		８人
２／１１（土）	フットソフトボール		８人
２／２５（土）	フットソフトボール		９人

【参加者保護者の声～インタビュー（9名）より～】

・定期的なスポーツ活動ができて、休日の過ごし方が変わった。
・専門的なことを指導してもらえるのでありがたい。
・同じ年齢の人で行っているので、居心地がいいみたい。
・継続してほしい。
・もっとほかの学校からも集まればいいと思う。

次年度に向けて

【参加者保護者アンケートで全員が同じ回答した内容】

・運営について、民間スポーツクラブに移行してもよいと思うが、現在の雰囲気を変えないでほしい。
・月謝については、一般のスポーツクラブのような金額であれば、月謝を払ってでも参加したい。
・子供を理解している学校の先生がいると安心できる。

『第6回フライングディスク交流大会～弘大杯～』

【実施報告】

日　　時	令和4年12月10日（土）　９:00～11:50	
会　　場	本会場	弘前大学教育学部附属特別支援学校
	福島会場	福島県立西郷特別支援学校
	宮城会場	福祉施設
参加者数	青森県	17名
	福島県	19名
	宮城県	新型コロナウィルス感染拡大に伴い自粛 ＊フライングディスク協会の会長がオンラインで観戦

【福島県の声】
- 今年もオンラインで大会ができて嬉しい。
- オンライン大会の日を楽しみにしていた。
- 福島県の各チームが集まる機会となる大会である。
- 継続していきたい。

【宮城県の声】
- 集団が苦手な人でも、気軽に参加できると感じた。
- コロナで参加できなかったことがとても残念だった。
- 来年は、参加したい。
- この機会を継続してほしい。

令和４年度　スポーツ庁委託事業　　成果と課題

令和４年度の課題	◎成果 ●令和５年度に向けての課題	今年度の目標と結果
学童期から青年期へのつなぎの連携 わいわいSCとユニバーサルSCの連携 定期的な活動ができるシステムの構築	◎『がちスポ』の実施に伴い、定期的な活動の場が構築された。 ◎次年度以降、地域スポーツクラブ主体へ移行できる可能性が見えた。 **⇒地域部活動の構築**	スポーツ実施率の向上（実施率40%） 生涯を通したスポーツ活動の場の構築 遠方からでも参加できるスポーツ機会の提供 地域人材との連携、活用 ・地域総合型スポーツクラブ ・地域プロスポーツチーム ・障害者スポーツ指導員 ⇩ 弘前大学モデルを通して、実施できた。スポーツ実施率（本校２０％）については、コロナ禍での影響があり、難しい部分があった。
地域人材、地域施設の活用 地域の中でのスポーツ活動の展開	◎地域スポーツクラブ、地域プロスポーツチームと連携した開催ができた。 ◎弘前市との連携が定着してきた。	
各組織の役割分担の明確化 実行委員会の機能を活かす 組織図作成し、円滑な連携体制構築	◎役割分担は整理できつつある。 ●実行委員の在り方について検討が必要である。	

【障害がある人が地域でスポーツを行っていく上での課題（実行委員の声）】

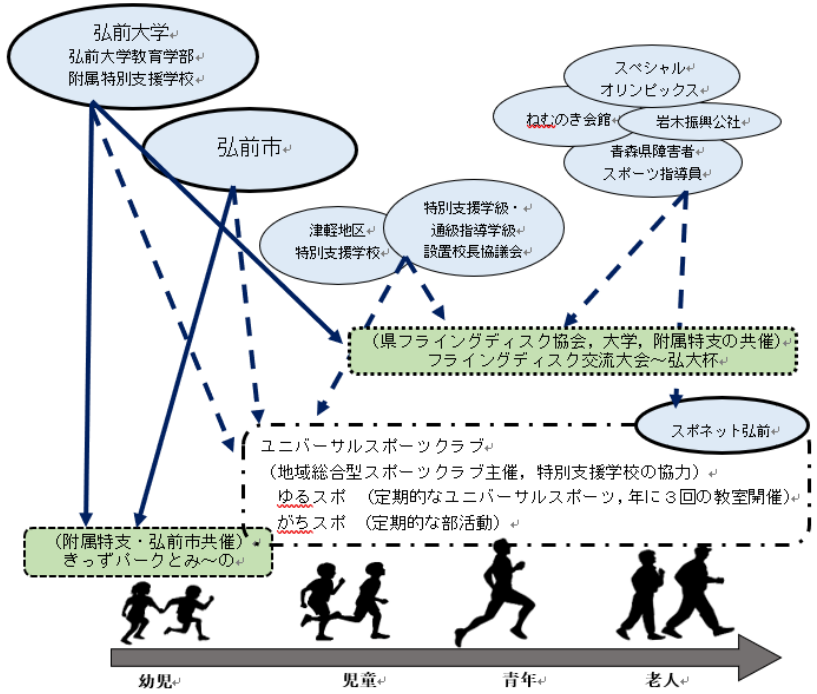
・大会や教室等の開催地までの交通手段、スポーツをする場所への移動手段、遠方からの参加
・始めるきっかけ作り
・継続してスポーツができる場を提供していくことが大切（実施機会の確保、場所、頻度、指導者）
・安心感（安全面、アクセスのしやすさ、居心地の良さ）
・指導者の意識・考え方。障害者スポーツの場合「スポーツをする」ことだけでなく、スポーツをする場に行ったり、仲間たちと切磋琢磨したりするような「スポーツを通して」の経験を重ねるという側面が大きい。

【残された課題】

・移動手段➡会場の選定
・指導者の確保
・安心感のある活動
・情報提供
・実施回数と時期

令和４年度　スポーツ庁委託事業　　次年度の方向性

活動⇒継続実施
主催団体⇒整理し地域団体へ移行する活動あり
実行委員会⇒情報共有のため、名称を変更して継続



活動		主催（共催）	目的	連携団体	課題解決方針 実行委員の意見を受けて
きっずパークとみ～の		附属特別支援学校 弘前市	早期療育 幼児期の身体運動の場	弘大　特別支援教育	地域に開かれた定期的な活動
フライングディスク 交流大会～弘大杯～		附属特別支援学校 弘前大学 県障害者フライングディスク協会	スポーツ交流 共生社会の実現	特別支援学校 特別支援学級設置校 ねむのき会館	継続した開催 共生社会の構築
ユニバーサル スポーツクラブ	ゆるスポ	地域総合型スポーツクラブ スポネット弘前	社会参加 インクルーシブ 共生社会の実現	附属特支 障害者スポーツ指導員 岩木振興公社 ねむのき会館 スペシャルオリンピックス 特別支援学校 特別支援学級設置校	誰もが参加できる定期的な運動の場 「スポーツをとおして」生活経験の拡大
	がちスポ	地域総合型スポーツクラブ スポネット弘前	競技力向上 社会参加		競技力の向上 定期的な運動の実施 **⇒地域部活動**